

○グループワーク用記録シート

1 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・自己肯定感低下⇒ここへのアプローチができるのでは？
- ・周囲の受け入れ（環境・友人）が良ければ本人は過ごしやすい⇒周囲の子の能力が上がってくる中でどのようにあたたかい受け入れをつくっていくか
- ・障がいの理解

●具体的な支援策の内容

優先順位①

- ・忘れ物・失くし物⇒メモをとらせる
- ・家族へは本人にメモを毎日確認するよう伝言 集中できる時間を測定する
- ・1つ1つ丁寧に関わることで自己肯定感が上がってくる
- ・ノートテイクが苦手⇒タブレット、マーカーや色付け

・特別支援学級だと可能
・普通学級だと難しい

優先順位②

- ・家族、学校、専門職（JOINなど）で話し合いの場を設ける。親の会を紹介する。
- ・学校の先生から専門機関を紹介するとやりやすい。医療機関より相談機関の方が家族も相談しやすい。（学校側は発達障がいがか心配な母子の相談を受けている。）

○グループワーク用記録シート

2 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・どこが困っていて、どう対応するか

●具体的な支援策の内容

- ・わかりやすい表現で特性理解
- ・環境整備
- ・両親の理解 相談相手先 → こまっていることを話せるように
対応・ノウハウについて
特性についても説明

- ・発達障がい支援センター
- ・放課後等デイ
- ・障がい者基幹相談支援センター
- ・保健師

- ・自信失っていること・・・特性理解で自信取り戻す
友人との距離感つかむ
- ・忘れないように・・・対応考える。のびたところをほめる。視覚支援
- ・ノートテイクうまくできない・・・学校の配慮
- ・本人・学校・関係者がどこまで理解している？（ほんやりとわかっているようだが）
⇒関係者・本人・親が一同に話し合える場が必要

○グループワーク用記録シート

3 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・保護者へのサポート・共有方法

●具体的な支援策の内容

- ・本人・保護者・担任からそれぞれの困っているところを聞き、家や学校での様子を共有。
- ・何ができて何が苦手か整理し、特性を説明した上で支援機関等（JOIN・障がい者基幹相談支援センター）へつなげ、相談を受けるようにする。

○グループワーク用記録シート

4 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・保護者へのサポート・共有方法

●具体的な支援策の内容

- ・忘れ物・失くし物・提出物⇒どこに出すか・何をもっていかを一緒に取り組んでみる（本人・保護者）
- ・本人の困り感が保護者に伝わっていない⇒担任から伝える（特性のためにできないことがある）

↓
運動や友達関係のトラブル⇒今後は家庭内で暴力行為がある

- ・教育と福祉が連携を！
- ・学校が福祉の引き出しを！

家庭⇒JOIN・障がい者基幹相談支援センター
学校⇒特別支援教育サポートセンター

○グループワーク用記録シート

5 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・特性の理解と環境調整

●具体的な支援策の内容

- ・できない部分はスモールステップで支援学校へ行けると良い。
- ・担任の先生も特性を理解して環境調整する。（例えば前の席など）
- ・運動以外でも他に得意な部分を見つける。
- ・運動でも、競争ではなく、自分の記録を伸ばす等の目標となると良い。
- ・成功体験をつくるとよい。
- ・途切れている受診に行けると良い。
いきなり受診が難しければ、相談機関にまずつながるとよい。相談⇒受診につながると良い。

○グループワーク用記録シート

6 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・保護者へのサポート・共有方法について

●具体的な支援策の内容

- ・担任と両親、支援員など複数名での話し合い⇒専門機関受診をすすめる。特性の理解を図る。
- ・両親に様々な支援があり、利用できることを伝えていく。
- ・第三者に話し合いに入ってもらい、客観的な目線で姿を伝える。
- ・保護者の受診への抵抗をやわらげるためにまず話を聞く。
- ・本人の話を聞く。
- ・悩みを共有する。⇒ストレスも減る。
- ・多動性はない
- ・自信を失くした
- ・障がいだけでなくもありえる姿
- ・忘れ物多い⇒服薬によって減ることも
- ・医師に相談
- ・医療につなげていく⇒「抵抗あり」を和らげる
- ・ノートがとれない⇒集中力がないから？
- ・聞く力を育てる
- ・把握し、中学へつなげる
- ・特性を保護者と共有する（医師と保護者、関係機関と保護者）

相談支援事業所

・話を聞いてあげる（本人・家族）
・「1番じゃなくてもいいんだよ」

○グループワーク用記録シート

7 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・特支1学年、2学年から「就労って何？」
- ・グレーより（白に近い）の方に対してはどんな支援が必要か。
- ・小3のときに診断はしている。現在は小6のため、本人の不安感を取り除く必要
⇒障がい名だけが情報として残り、その子に対するアプローチの仕方が不明。
⇒両親への不安感を減らしていく。
- ・将来的な可能性を付加できるように取り巻く環境を整える。

●具体的な支援策の内容

- ・障害特性について、専門的な説明のみではなく「わかりやすく、どうすればよいのか」を伝える。
- ・医療機関⇒関係機関⇒学校⇒将来へのつながるためにまずは相談
- ・両親の責任の負担を軽減⇒母親の苦労を共有できて、話を聞き理解できる人
- ・両親が「障がい名」という情報で不安になり、最初は問題なく生活できていた本児も次第にうまくいけなくなり「障がい」という特性が徐々にあらわれはじめる。
- ・現在の本児の障がい特性を知るために、医療機関が必要となるが、まずは両親の不安感を軽減できるように、支援機関へつなぐ、もしくは情報提供をし、専門的な説明のみではなく、「わかりやすく、どうすればよいのか」を伝えてアプローチをかける。

○グループワーク用記録シート

8 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・障がい受容（親）
- ・学校側の反応（支援方法の確認）

●具体的な支援策の内容

- ・障がい受容できていない⇒家族支援⇒ネットワークをつなげる
親の会などに経験などを含め相談する
- ・不安を取り除く
・安心させる
- ・受診内容を共有する
- ・親が困っていても子どもが困っている⇒子どもが信頼できる方と個別に直接相談
⇒思春期（このままの自分でもいいんだ）
- ・学校側が本人のこと（ADHD含め）をわかってくれているか⇒本人の意思を尊重

○グループワーク用記録シート

9 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ①支援機関へのつなぎ
- ②自己肯定感の低下

●具体的な支援策の内容

- ①JOINの紹介
 - ペアレント・トレーニングをしてもらう
 - 服薬をすすめる（二次障がいをおこさないため）
 - ソーシャルワーカー・カウンセラーなど紹介（プロの方の力を借りる）
 - 具体的な支援法を知る
 - 先輩・保護者の話を聞く
- ②負ける⇒くやしい⇒自分ほだめ
 - 個人競技にする（団体よりも）
 - クラス周りの友達がその子を知る学習をする
 - 本人の困り感を伝える、周りに
 - 本人の気持ち □でなくても絵で描いて伝える
 - 担任・親・友達が代弁してやる
 - 周りの友達に本人のいいところを伝えてあげる

○グループワーク用記録シート

10 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ①小学校と中学校での引継ぎ
- ②自己肯定感の低下

●具体的な支援策の内容

- <①について>
 - ・小・中から伝えてもらう
 - ・区役所に入ってもら
 - ・相談員に入ってもら
 - ・放課後等デイサービスを使ったらどうか。
 - ・6年生の情報伝達会 3月くらい
 - ・保護者のサポート・就学支援ファイル
 - ・受診⇒服薬
 - ・先生の方から相談先を教えてください
- <②について>
 - ・負けたときどうしたらいいか教える
 - ・JOINに連絡する
 - ・家族にとって行きやすいところの選択肢を与える

○グループワーク用記録シート

11 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・支援機関へのつながり

●具体的な支援策の内容

- ・支援機関が他とのつながりを持つ（学校・家族・本人・行政等）
⇒様々な情報を家族・学校へ提示
- ・情報共有（小⇒中への環境変化への対応）、一貫した支援

○グループワーク用記録シート

12 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・小学校と中学校の情報共有

●具体的な支援策の内容

- ・担任から本人・親へ情報提供する（JOINなど）
- ・中学校の先生に本児の様子を見てもらえないか⇒実際に見てもらうことで、話だけでは見えてこないものが見えてくる。
- ・中学に特別支援教育コーディネーターがいるかどうか確認を行う。
- ・幼保で作成する支援ファイルは小学校にもあるのか？
- ・両親との個人面談の場を設ける。

○グループワーク用記録シート

13 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・中学生活への不安を和らげるための支援
- ・サポートはどうあるべきか

<目標>

- ①彼が自分自身について理解すること
- ②中学校において見通しが持てるようにする

●具体的な支援策の内容

<①について>

- ・彼が自分自身について理解できることをサポートできるような人が必要
- ⇒校内の支援委員会や支援学級担当であり、最も身近な保護者が理解し、本人が困り感を訴えられるようになる

↓
方向性が合っているのか、スーパーバイズしてくれる立場の人もほしい
そのためには医療とつながっておけると安心

<②について>

- ・小学生のときに校内を見学、説明を受ける
- ・全員一体で一回見学するだけでなく、複数回見学してはどうか

○グループワーク用記録シート

14 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・支援機関へのつながり

●具体的な支援策の内容

・支援機関ってどこ？

①JOIN ②特別支援教育サポートセンター ③病院 ④こころん

⇒支援機関がありすぎるので、その機能の明確化と周知

・アウトリーチをしてもらう、つながるための環境を設定していく

・病院⇒診断されるが、薬を処方され、両親拒否⇒継続できない。

・診断・障がい名にこだわらず、行動に着目し、そこからアプローチしてみる

<小学校6年生保護者には>

- ・9月に中学来てもらって進路をいくつかのパターンを図解で示した。⇒保護者に情報提供
- ・中学での生活イメージをしてもらう。

○グループワーク用記録シート

15 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・保護者へのサポート・共有方法
- ・支援機関へのつながり

●具体的な支援策の内容

- ・学校での様子を伝える
- ・病院で薬について情報を入れてもらう⇒医療とのつながり
- ・大人になって相談できる場を紹介する。

○グループワーク用記録シート

16 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ・特性の理解と保護者のサポート

●具体的支援策の内容

<本人の状況>

- ・うまくいかないことが増えてきた
 - ・怒られてばかり
 - ・勝っていたのに負けてしまうようになった
- ⇒困り感・自信がなくなる

<どうすることがよいか どうすればよいか>

- ・自信をつける
- ・勝ち負けの理解

<中学校では自分を知る>

- ・将来の姿、希望に近づくための方法・スキル・克服
- ・向き不向き職業観など理解

<保護者の状況>

- ・本人の対応に苦慮している
 - ・理解できていない
- ⇒気づき・対応苦慮

<どういう支援が効果的なのか>

- ①説明の仕方を工夫
⇒父と母でそれぞれ気持ちが変わってくる（わりと父は大きくなればなんとかなるだろうと考えている）
- ②できれば早期から支援
- ③保護者対象研修
- ④支援会議（保護者・本人・学校）

○グループワーク用記録シート

17 グループ

●支援のテーマ（重点的に話し合ったこと）

- ①医療の必要性・つなぎ
- ②本人・家族の障がい特性の理解
- ③小⇒中⇒高⇒大への情報共有
- ④保護者へのサポート

●具体的支援策の内容

<②について>

- ・本人が受容理解してくれるような伝え方。関係性づくり。支援・医療を受けることのメリットを伝える。
- ・本人が何をしたいのか、そのためには何をしないといけないのかを本人に話していく。
そこから特性理解の話に持っていく。

<③について>

- ・情報共有の流れは現状できていない。
- ・応援ネット・・・若者支援センターオールで実施

<④について>

- ・保護者にも傾向のある人もいる。その場合支援が困難なことも。保護者のサポートが必要。